

水道事業の現状と課題

市の水道事業の持続可能な経営のために、水道利用者の皆さんに水道事業の現状と課題をお知らせします。市HPでは、経営戦略などの資料を掲載していますので、併せてご覧ください。また、水道課および各支所・中央公民館の窓口にて意見箱を設置していますので、水道料金の適正化などに意見のある人はぜひ回答してください。

☎水道課 TEL22-6835

🆔21641

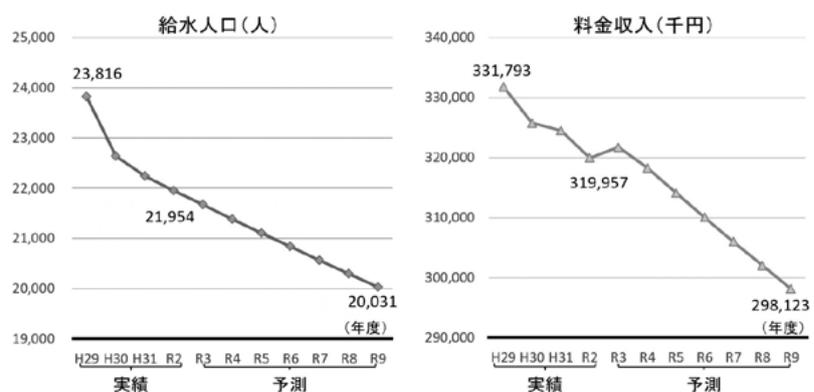
水道料金の適正化について

水道事業は原則として市町村が運営するものと定められており、独立採算制を前提とした地方公営企業会計で経営されています。しかし、人口減少による収入減少と維持管理費の増加により、経営の悪化が懸念されています。今後持続可能な水道事業を運営していくために、水道料金の適正化について検討します。

山県市水道事業の課題

課題①人口減少による収入の減少

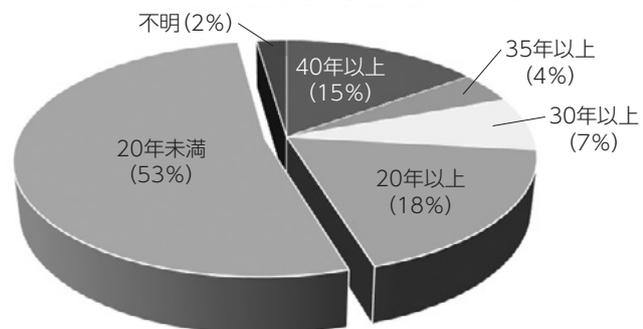
市では、人口減少に伴い、料金収入が1年ごとに約1.3%ずつ減少していく見通しとなっています。1.3%を金額にすると約400万円の減収であり、収入の改善が必要です。



課題②施設の老朽化と更新費用の増加

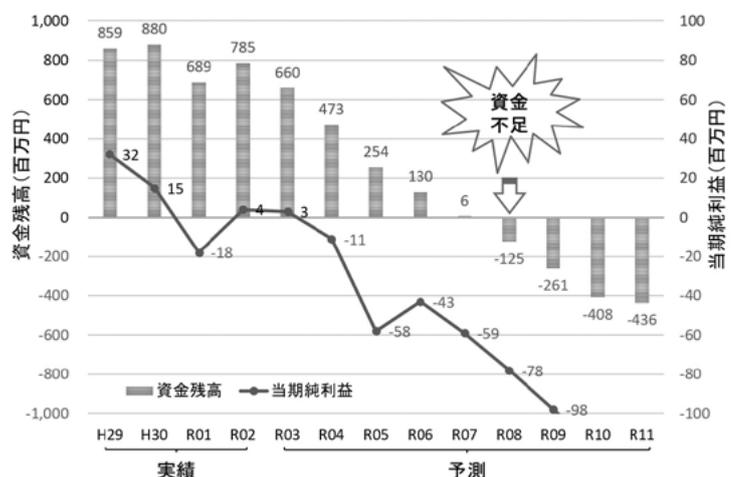
水道管や浄水場などの施設の老朽化が進んでおり、早急な対策が迫られています。水道管は耐用年数40年を超えた老朽管が15%あり、今後10年で全体の約27%を超える見通しです。施設の更新などを計画的に行わなければ、漏水や断水事故が発生し、安全・安心な水を安定的に供給することができなくなる可能性があります。

布設経過年度分布(令和3年度)



課題③赤字経営と資金不足

収入減少と支出増加が進むと、利益は減少してしまいます。今後の予測では、令和4年度以降支出が収入を上回る赤字会計(損失)の見込みとなっています。また、このままの経営状態では令和8年度には資金不足により経営ができなくなってしまう恐れがあり、経営の見直しが必要です。



水道事業の現状と課題 vol.2

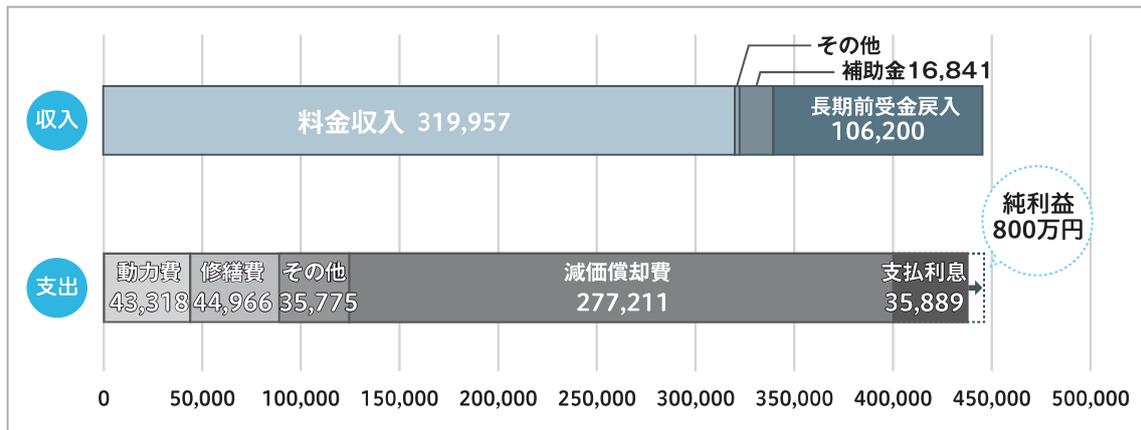
水道事業の持続可能な経営のために、令和2年度に水道事業経営戦略を策定しました。経営戦略の中では、実績値を基に今後10年間における収入・支出の見通しが予測されています。今回は令和2年度の実績値と令和5年度の見込みの収支比較を行い、来年度以降水道事業がどのような経営状態になる見通しか、グラフで説明します。

☎水道課 TEL22-6835

水道事業の収支予測と比較

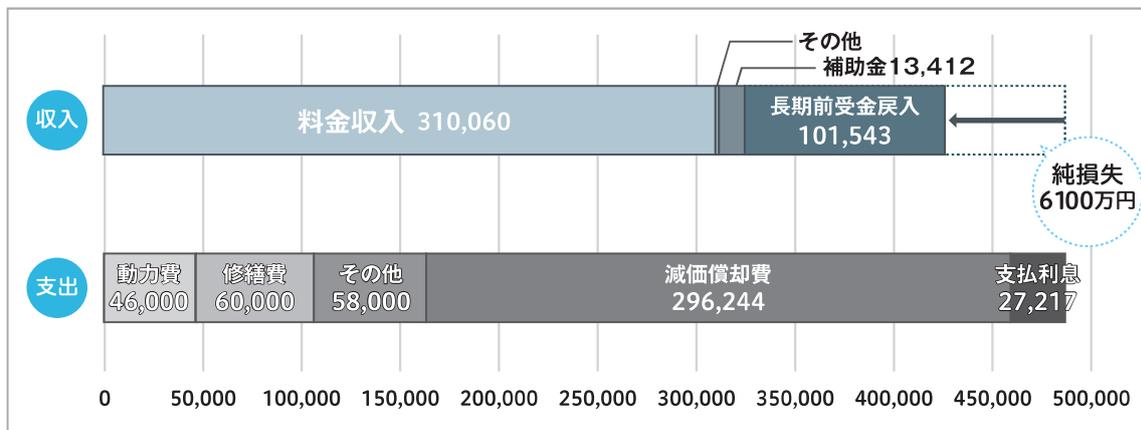
①令和2年度の収支比較

(単位：千円)



②令和5年度の収支比較(見込み)

(単位：千円)



人口減少に伴い、料金収入は毎年約300万円の減少が予測されています。よって令和2年度に比べ、令和5年度の料金収入は約1000万円の減少見込みで、収入全体としては約2000万円の減少見込みとなります。

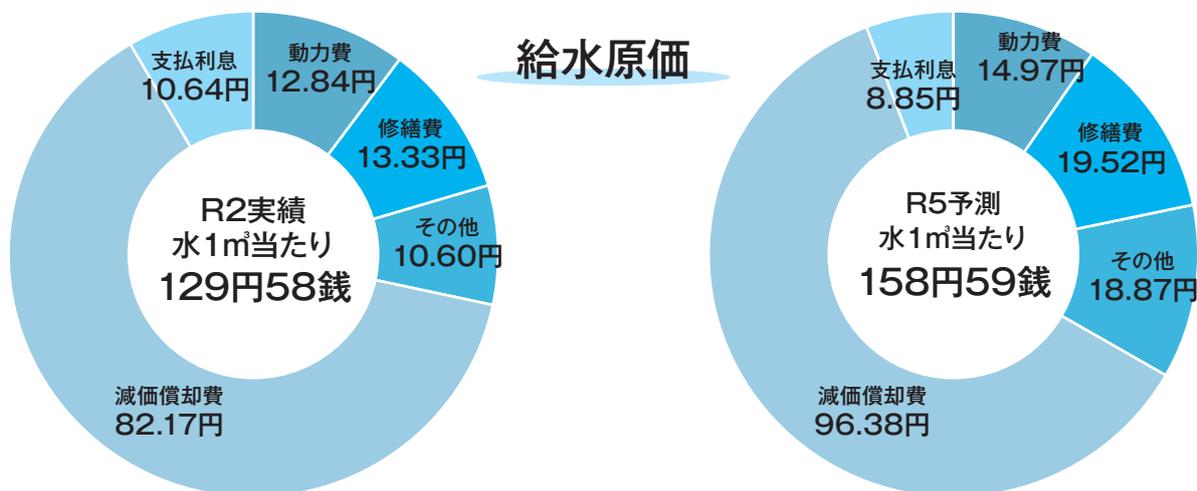
一方、支出では老朽化した施設の更新に伴い、減価償却費が約1900万円の増加となる見込みです。減価償却費とは取得した固定資産に対して、資産価値の目減り分を費用として計上したものです。また、水道管からの漏水件数の増加やエネルギー単価の高騰などにより、修繕費や動力費などの支出が増加傾向であり、全体として5000万円の費用増が見込まれます。

以上の収支見込みにより、令和2年度は**純利益800万円**であったのに対して、令和5年度は**純損失6100万円**となり、資金残高(現金)は約7億8000万円から約2億5000万円まで減少する見込みです(前月号3ページの vol.1 参照)。今のままでは令和8年度には資金が枯渇し、安定的な事業の運営ができなくなる可能性があります。持続可能な経営のために、収入の改善が必要と考えられます。

水道事業の現状と課題 vol.3

前月号のVol.2では、令和2年度実績と令和5年度予測の収支を比較して、経営状況の見直しを行いました。今回は支出に着目して、水1m³を供給するために要した費用を指す給水原価を令和2年度実績と令和5年度予測で算出し、各年度の原価割れについて説明します。

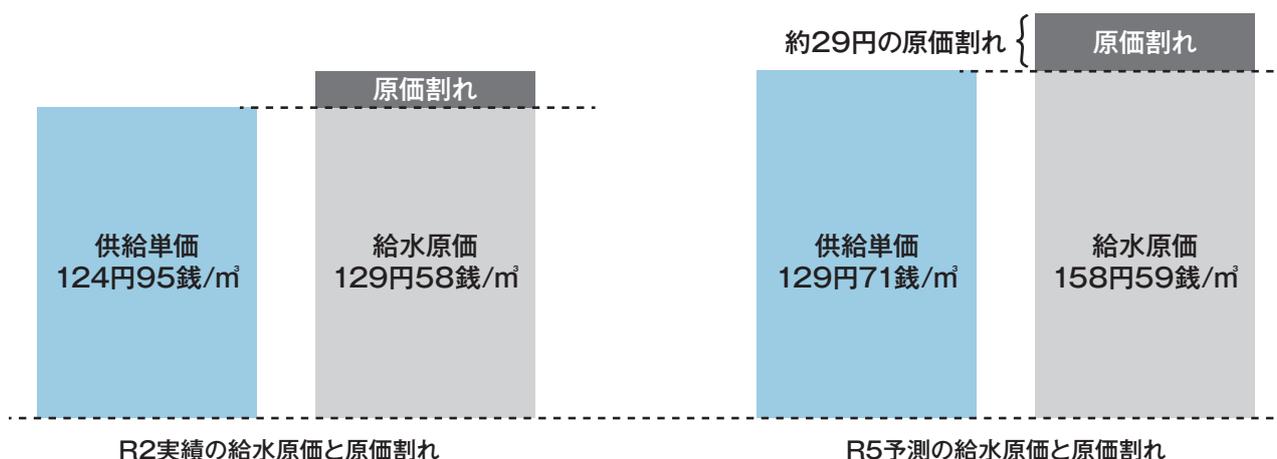
閩水道課 TEL22-6835



R2給水原価	=	$\frac{\text{経常経費} - \text{長期前受金戻入}}{\text{有収水量}}$	=	$\frac{331,815,773}{2,560,606}$	=	129.58 (円/m ³)
R5給水原価	=	〃	=	$\frac{385,918,000}{2,433,471}$	=	158.59 (円/m ³)

※使用数値は水道事業経営戦略より参照

給水原価とは、水1m³を給水するために要した費用であるため、給水原価をなるべく低く抑えることが経営改善には必要です。しかし更新工事費の増加により、令和2年度に比べ令和5年度は減価償却費が1m³当たり約14円増加し、全体としては約29円も増加してしまう予測となっています。



供給単価は水1m³当たりの収入(販売単価)であり、健全経営を行うためには供給単価が給水原価を上回る必要があります。しかし、令和2年度の時点ですでに下回っており、原価割れしている状態です。令和5年度の予測ではさらに原価割れが進んでおり、約29円(22%)の差が生じています。原価割れが続くと、水を供給すればするほど経営が悪化してしまうため、持続可能な経営ができなくなってしまいます。よって、計画的な更新で費用を抑えつつ、収益の改善をする必要があります。

水道事業の現状と課題 vol.4

山県市水道事業の現状と課題について、広報7月号から vol.1～3として掲載してきました。vol.1では人口減少による収入減少と更新費用増加による経営悪化の現状、vol.2では令和2年度の実績と令和5年度の予測値の収支比較、vol.3では原価割れの現状を説明しています。

今回は上記の現状と課題を踏まえ、経営状況を改善するために、経営のシミュレーションを提示します。シミュレーション条件としては、基本料金と超過料金に対して、20%から40%の改定率で設定しました。

☎水道課 TEL22-6835

経営シミュレーション

基本料金(一般家庭用φ13) 1,000円/月 超過料金 120円/m³(税抜) (千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
現行 料金	営業収入	329,930	311,560	307,530	303,551	299,624	295,749
	営業費用	448,621	460,244	436,494	447,925	460,630	475,454
	当年度純利益	△ 11,879	△ 60,946	△ 45,063	△ 61,589	△ 79,945	△ 99,969

慢性的な赤字経営

基本料金 1,200円/月 超過料金 144円/m³(税抜) (千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
改定率 20%	営業収入	329,930	378,471	373,571	368,735	363,960	359,247
	営業費用	448,621	460,244	436,494	447,925	460,630	475,454
	当年度純利益	△ 11,879	5,965	20,978	3,595	△ 15,609	△ 36,471
		20% up		3年間黒字経営可能			

基本料金 1,300円/月 超過料金 156円/m³(税抜) (千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
改定率 30%	営業収入	329,930	409,886	404,577	399,377	394,165	389,060
	営業費用	448,621	460,244	436,494	447,925	460,630	475,454
	当年度純利益	△ 11,879	37,380	51,984	34,197	14,596	△ 6,658
		30% up		4年間黒字経営可能			

基本料金 1,400円/月 超過料金 168円/m³(税抜) (千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
改定率 40%	営業収入	329,930	441,300	435,583	429,941	424,370	418,872
	営業費用	448,621	460,244	436,494	447,925	460,630	475,454
	当年度純利益	△ 11,879	68,794	82,990	64,801	44,801	23,154
		40% up		6年間黒字経営可能 (R5～R10)			

※営業収入・・・水道料金の収入およびその他の収入
 ※営業支出・・・経常経費および減価償却費などの支出
 ※当年度純利益・・・収益的収入と収益的支出の差額

水道料金算定要領において、水道料金の価格はおおむね3年間から5年間で算定期間として設定する必要があります。よって算定期間中は黒字経営が望ましく、以上のシミュレーションを提示しました。

市の水道料金は、平成21年4月1日の改定後、13年間その料金水準を維持してきました。しかし、今後はさらなる人口減少により、給水量が減少し料金収入も減少する見込みの中、老朽化する施設の更新や耐震化事業に多額の費用がかかってしまいます。上記の現行料金におけるシミュレーションにもあるとおり、今後は慢性的な赤字経営が予測されます。よって安定した経営のためには、料金の見直しが必要と考えられます。

今回の vol.4も含めた水道事業の現状と課題について、意見や質問のある人は、意見箱を水道課や各支所、中央公民館に設置していますので、ぜひ投函してください。

5.料金改定シミュレーション

パターン3：令和5年に30%

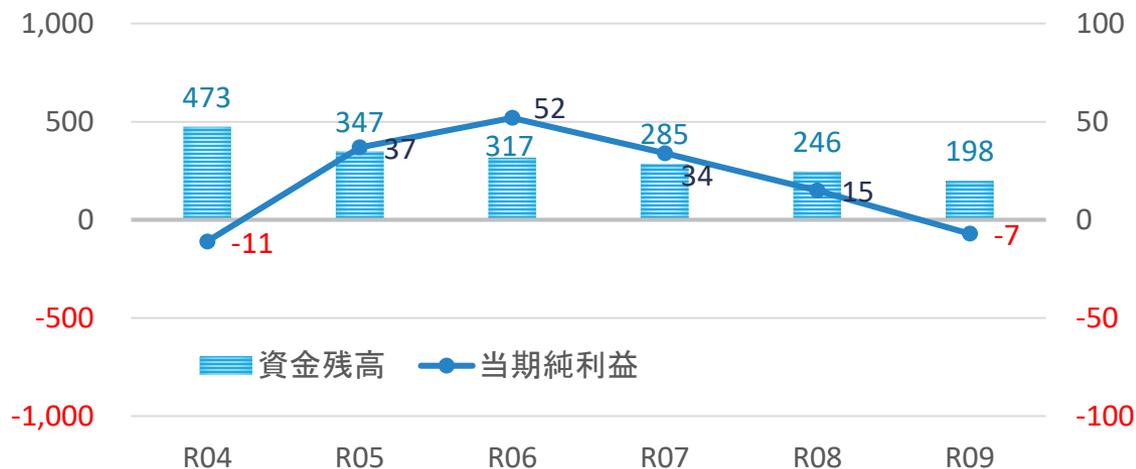
基本料金 1,300円/月(税抜)

超過料金 156円/月(税抜)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
収益的収入	448,621	524,841	513,096	506,143	538,040	530,577
収益的支出	460,500	487,461	461,112	471,946	484,177	498,479
当年度純利益	△11,879	37,380	51,984	34,197	14,596	△6,658

30%↑

4年間黒字経営可能



30%改正では、直近5年間のうち、4年間は黒字経営を行うことができる。しかし、令和9年度以降は赤字見込みであり、当該年度にて料金の見直しが必要と考えられる。

5. 料金改定シミュレーション

令和4年10月現在

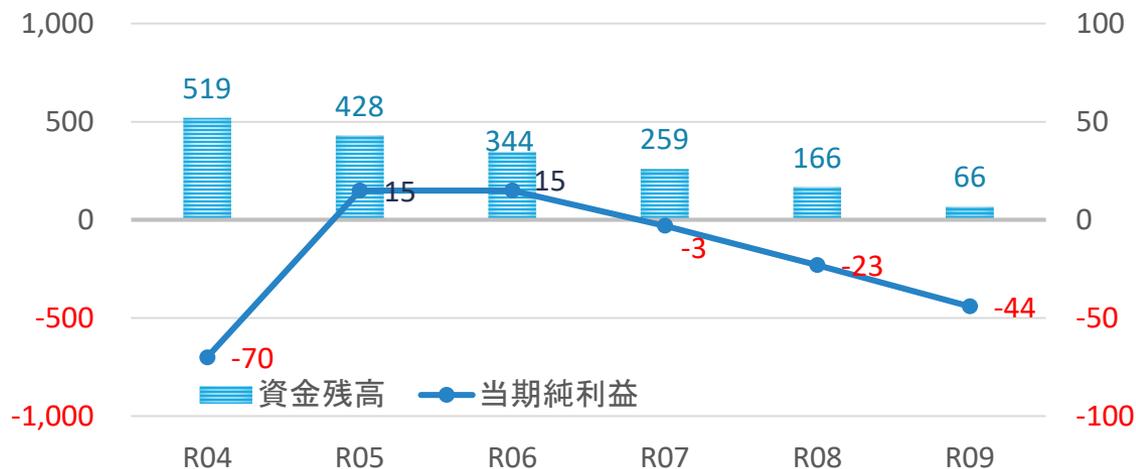
パターン3：令和5年に30%

基本料金 1,300円/月(税抜)

超過料金 156円/月(税抜)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
収益的収入	450,491	536,189	513,096	506,144	498,773	491,821
収益的支出	520,148	521,616	498,298	509,132	521,363	535,665
当年度純利益	△69,657	14,573	14,798	△2,988	△22,590	△43,844

30%↑



今般の電気代高騰により、利益・資金残高の見込みを修正しました。

今後の状況を注視し、都度シミュレーションを修正していく必要があります。